

#### 特 許 協 力 条 約

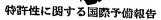
REC'D 2 4 FEB 2005

PCT

特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70] 01 JUL 2005

	<del></del>		<del></del>			
出願人又は代理人の事類記号 15-480	今後の手続きにつ	ついては、様式PCT/	I PEA/41	6を参照	照する	こと。
国際出願番号 PCT/JP03/16480	国際出願日 (日.月.年) 2	2. 12. 2003	優先日 (日.月.年)	08.	01.	2003
国際特許分類 (IPC) Int. Cl' Be	0G11/14					
出願人(氏名又は名称) 本田技研工業株式会社						
·						
1. この報告書は、PCT35条に基づき 法施行規則第57条(PCT36条)の	この国際予備審査 の規定に従い送付す	E機関で作成された国際で	が備審査報告で	ある。	<del></del> .	
2. この国際予備審査報告は、この姿紙を		6ページ	からなる。			
3. この報告には次の附属物件も添付され a	ている。 ページであ	ა <b>გ</b> .				
□ 補正されて、この報告の基礎 囲及び/又は図面の用紙(P	さされた及び/又 CT規則70.16及7	【はこの国際予備審査機B び実施細則第607号参	目が認めた訂正。 照)	を含む明	翻書、	、請求の範
第1 欄4. 及び補充欄に示し 国際予備審査機関が認定した	たように、出願時			た補正を	:含む	ものとこの
· 🗀 🛪=###			•			
b 望子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示すよ ブルを含む。(実施細則第80	うに、コンピュー 2号参照)	夕読み取り可能な形式に	(電子媒 よる配列表又)	体の種類 は配列表	質、数 :に関〕	(を示す)。 連するテー
4. この国際予備審査報告は、次の内容を						
図 第 I 棚 国際予備審査報告 第 I 棚 優先権 第 II 棚 新規性、進歩性 3	ては産業上の利用す	可能性についての国際予	備審査報告の不	作成		
	□ 第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 区 第IV欄 発明の単一性の欠如					
X 第V禰 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明						
けるための文献及び説明  第VI棚 ある種の引用文献						
□ 第VI欄 国際出願の不備				1		
図 第四棚 国際出願に対する	意見					
国際予備審査の請求書を受理した日 15.07.2004		国際予備審査報告を作成した日 03.02.2005				
名称及びあて先						
日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915		特許庁審査官(権限の	ある職員)		3 Q	9619
		細川健人		L.		
東京都千代田区段が関三丁目4番	A			•		
<u> </u>		電話番号 03-35	81-1101	内線	3 3	80



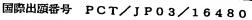
国際出願番号 PCT/JP03/16480

第1個 報告の基礎	1017 1703/16480
1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほ	か、宮際山路の会館を作業し、
□ この報告は、	を基礎とした。 bる。
2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。 (法第69 た差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この	条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出され の報告に添付していない。)
※ 出願時の国際出願む類	
□ 明細告 第 ページ、 第 ページ*、 第 ページ*、	出願時に提出されたもの
□ 請求の範囲	一 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第	PCT19条の規定に基づき補正されたもの 
図面 第 ページ/図、	出願時に提出されたもの はは不同時又のますがあります。
□ 配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充概を参照すること。  3. □ 補正により、下配の告類が削除された。	
明細書 第   請求の範囲 第	ページ 15
□ 図面 第 □ 配列表(具体的に記載すること) □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載す	項 ページ/図 ること)
	添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超れなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))
<ul><li>□ 明細書</li><li>□ 請求の範囲</li><li>第</li></ul>	ページ
□ 図面 第 □ 配列表(具体的に記載すること) □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載する	
* 4. に該当する場合、その用紙に"superseded"と記入	されることがある。

# 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP03/16480

第IV概 発明の単一性の欠如	
1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、	
□ 請求の範囲を減縮した。	
□ 追加手数料を納付した。	
X 追加手数料の納付と共に異識を申立てた。	
□ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。	
2. 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCTに従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。	規則68.1の規定
3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。	<b>o</b>
満足する。 	
この国際出願は発明の単一性の要件を満たさない以下の3つの発明 (1) 請求の範囲1 (2) 請求の範囲2,3 (3) 請求の範囲4 これらの3発明のあいだには、一又は二以上の同一又は対応する特別 的特徴を含む技術的な関係はない。	
	İ
A 1.3-12 Emmun-	
4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。	
文章 では、「大きな、「大きな、「大きな、「大きな、「大きな、「大きな、「大きな、「大きな	
□ 請求の <b>範囲</b>	に関する部分



第V梱 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条 (PCT35条(2)) に定める見解、 それを取付ける文献及び説明

4		見解
	-	E 1076

新規性 (N)	請求の範囲 請求の範囲	有無
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲	有無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	有無

## 文献及び説明 (PCT規則70.7)

(1) 請求の範囲1について

·文献1:US 4456282 A 文献2:US 3111307 A

請求の範囲1に記載の配置構成については、国際調査報告で引用された上記文献 1 (第1図参照)、文献2 (第2図参照) に記載されているため、新規性及び進歩 性はない。

(2) 請求の範囲2, 3について ・文献3: JP 8-175142 A

・文献4:JP 56-060707 A 国際調査報告で引用された上記文献3、文献4には、リバウンド時におけるコイルスプリングの上端を支持するスプリングシートと下端を支持するスプリングシートとが略平行になるようにすることにより、リバウンド時にコイルスプリングの胴曲がりを防止するという技術思想が開示されているものであるから、「最大リバウンドはなるようにするという技術思想が開示されているものであるから、「最大リバウンドはなるというでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるというでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルではあるなどでは、アードルのでは、アードルでは、アードルでは、アードルのでは、ア ンド時におけるゴイルスプリングの上端を支持するスプリングシートと下端を支持 するスプリングシートとの成す角度は、最大バンプ時におけるコイルスプリングの 上端を支持するスプリングシートと下端を支持するスプリングシートとの成す角 度」と略同じになるようにされているものである。よって、請求の範囲2,3に記載のように「・・・角度以下」に含まれるものであり、請求の範囲2,3に記載の

戦のように「特別と同等の効果は奏するものである。 さらにいえば、「最大リバウンド時におけるコイルスプリングの上端を支持する スプリングシートと下端を支持するスプリングシートとの成す角度は、最大バンプ 時におけるコイルスプリングの上端を支持するスプリングシートと下端を支持する スプリングシートとの成す角度」よりも小さくすること、すなわち、「最大バンプ時におけるコイルスプリングの上端を支持するスプリングシートと下端を支持する スプリングシートとの成す角度」を略平行にしないようにあえて機能性を損なう方 向に設計するようなことに技術的な進歩性はない。

(以下補充欄に続く)



### 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP03/16480

第四個 国際出願に対する意見

請求の範囲3には、特に車体状態を特定することなく「両スプリングシート(5 1,52)の中心を結ぶ直線は、両スプリングシート(51,52)と直交している こと」をクレームしているが、このことは本願の図5Aの説明と整合していない。

様式PCT/IPEA/409 (第四欄) (2004年1月)



#### 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP03/16480

### 補充概

いずれかの柵の大きさが足りない場合

# 第 V 概の続き

(3)請求の範囲4について

文献5: JP 8-108720 A
文献6: JP 11-115428 A
文献7: JP 9-118115 A
文献8: JP 8-295114 A
文献9: JP 2-144207 A

国際調査報告で引用された上記文献5に記載のサスペンションは、【0041】に記載のようにアンチリフトとして機能するように設計されているものであり、かつ、図面に記載のように「スプリング8」は後輪の車軸の前方に配置されているものである。

また、アンチリフト機能を奏するようなリアサスペンション構成とすることは上記 文献 6,7に記載のように周知技術であり、また、コイルスプリングの下端を、後輪 の車軸の前方においてナックルに接続することも上記文献 8,9に記載のように周知 技術であり、これら周知技術を適宜組み合わせることも当業者であれば容易になし得 たものである。